文化構想学部 複合文化論系 2019年度 ゼミ論文・卒業研究 題目一覧

* 2020年度より複合文化論系プログラムは下記のように改編されます。プログラム・ゼミの名称、ゼミ・先生の配置が、2019年度までとは異なるものがありますので、ご注意ください。

言語文化ゼミ	人間文化ゼミ
・ことばの歴史・ことばの地理 上野和昭先生	・文化ツーリズム論 寺崎秀一郎先生
・ことばの科学・ことばの哲学 酒井智宏先生	・宗教への人類学的アプローチ 國弘暁子先生
・ことばと文学・ことばと美意識 陣野英則先生	・移動・移住の人類学
超域文化ゼミ	感性文化ゼミ
・都市と美術 坂上桂子先生	・現代の文化哲学 小林信之先生
・文化変容論 宮城徳也先生	・現代文明への視座 高橋透先生
・集合的アイデンティティの諸相 山田真茂留先生	・メディア・コミュニケーション論 高橋利枝先生

言語文化ゼミ(ことばの歴史・ことばの地理) 上野和昭先生

青森県青森市における方言の使用意識と共通語化

大学生の敬語の使用実態と誤用意識 —「バイト敬語」を中心として—

大学生の使用実態に見る現代オノマトペの意味拡張

関西弁使用キャラクターが物語において果たす役割

現代日本語の色彩語使用について

国語辞典の序文と編集方針の関連性について

言語文化ゼミ(ことばの科学・ことばの哲学) 酒井智宏先生

差別語をめぐる対立の実相

念頭におくこと/指示すること —「念頭におきつつ指示していない」用法に基づく確定記述の分析—

CVCV型オノマトペの構造と意味における子音の音声素性について

記述否定とメタ言語否定は両立不可能か —前提取り消し否定に関する考察をもとに—

「起点(時・場所)」を意味する格助詞「に」と「から」の交替の条件

英語の口語ナラティブにおける歴史的現在の選択動機 —私的表現としての歴史的現在—

「テクレル」文が表示する恩惠の意味と行為の方向性の仕組み

間接引用が「言われていること」の報告にならないのはなぜか

文化人類学ゼミ(〈伝統〉文化とその変動) 西村正雄先生 ※2020年度ゼミ募集停止

日本のeスポーツの現況と課題 ～eスポーツ国際比較と格闘ゲームコミュニティ～

伝統文化の保存と継承への展望 禅の空間デザインの視点から

日本にある和食料理教室の和食文化における役割・影響とは —国内外における和食文化の発展衰退を考察する—

観光都市としての浅草 —浅草寺・仲見世商店街・雷門を中心に—

日本アニメ・マンガが動漫愛好者と中国アニメ・マンガ産業にもたらす影響 —広州における日本アニメ・マンガの受容から—

「政策—展示—販売」のサイクルが成り立つ「アート」の街」づくりについての考察

—ブルックリン・北京798芸術地区と比較した天王洲アイル・京浜島の動き—

イRezミに向けられた無意識のバイアス

横浜華僑社会における華僑アイデンティティの形成についての一考察 —雙十節を通じた文化継承のあり方から—

よさこいの人気の高まりと現代におけるコミュニティ

地下メンズアイドルの世界 ～規模拡大とその要因～

武家の古都・鎌倉の今後の在り方 —観光公害への住民意識と都市化の変容から—

文化人類学ゼミ(文化ツーリズム論) 寺崎秀一郎先生

大型農産物直売所と「やりがい」 —神奈川県横須賀市「すかなごっそ」と周辺農家の事例—

秋田竿燈まつりにおける女人禁制の実態と今後の展望

日本におけるキリスト教イベントの発展と人々の行動

観光を通して考える岩手県創生

高齢者のライフストーリーから見る生きがいのある高齢生活

現代人にとってのサードプレイス ～小さな呑みの場での新たな居場所形成の事例～

新しいライフスタイル: アドレスホッピングの諸相

中央線沿線文化人類学 ～〈中央線沿線文化〉という抽象概念～

食から形成される地域コミュニティのあり方 ～子ども食堂・子ども宅食の実践～

鎌倉から見る観光と地域住民 ～観光地の地域への影響～

文化人類学ゼミ(宗教への人類学的アプローチ) 國弘暁子先生

食の観点から見る宗教活動

日本の生理用品とそのイメージ

日本における犬肉食と法規制を考える

日本における身体装飾 イレズミとボディアート

なぜロリータ・ファッションを纏うのか —ロリータの精神と憧れ—

現代人が行うペット供養の形 —都内近郊の寺院を比較して—

井の頭公園の「ストリートミュージシャン」・「ベジタリアン」・「環境バカ」

化粧品からみる普通 〈就職活動における化粧の役割〉

何故ツイッターで流言が拡散されるのか —メールおよびLINEと比較して—

日本におけるベジタリアンのいま

ドッグランの成り立ちと飼い主間の相互行為

「ジャニーズファン」であること —ジャニーズファンコミュニティにおけるアイデンティティに関する考察—

Swedish Lifestyle in Terms of Living Alone and discussion of the relation with Swedish Welfare Policy

教会における天理教の信仰とコミュニティ

文化人類学ゼミ(移動・移住の人類学) 松前もゆる先生

国際結婚と多文化共生、変容し続ける日本社会 —日本人ムスリム女性の視点から—

在日外国人高齢者のケアの課題点

インバウンド観光の意義と課題

職場における多文化共生 —外国人留学生の就職支援を中心に—

教育現場における多文化共生

異文化接触ゼミ(アートと異文化コミュニケーション) 坂上桂子先生

三宅一生の活動におけるイサム・ノグチの存在 —ノグチから受けた影響と二人の共通点—

奈良美智 —作品の変遷と受容について—

今日における東京国立近代美術館の意義 ~本館展覧会を中心に~

メアリー・ブレアの生涯と作品

田中一村の描いた自然 奄美大島時代の作品について

城塞都市ウィーンにおける都市景観の形成と保存について

板谷波山の作品に見るアール・ヌーヴォーと日本の陶芸の近代化

常玉にみる「瓶花」と「盆花」

異文化接触ゼミ(文化変容論) 宮城徳也先生

学生服の持つ意味 —「着せる側」「着たい側」の視点から—

日韓男女から見る化粧の変化

現代の西洋ファッションにおける「ジャポニズム」

ヒーローと悪役 —冒険物語における彼の関係と関わり—

日本大学生における原作とディズニー映画の受容 ~『ピーター・パン』と『くまのプーさん』を通じて~

日本におけるチョコレート文化の変容

茶道からみた日本らしさ

スタジオジブリの食 —ジブリ飯はなぜ人々を惹きつけるのか—

人形とのかかわりに見る人間観の変遷

東西における人間と動物との関係 —グリム童話と日本昔話の比較から読み解く—

『神話論理』・『アドニスの園—ギリシアの香料神話』に見る、レヴィ=ストロースの神話理論と手法の有効性

ジル・ドゥルーズのマゾッホ、ニーチェ研究を通じたギリシア神話世界観の考察

シェイクスピアの女性像

英雄を目指した青年君主 —アレクサンドロス大王の神格化—

異文化接触ゼミ(アジアの思想交流) 土田健次郎先生 ※2020年度ゼミ募集停止

李卓吾と「狂」「異端」について

異文化接触ゼミ(メディア・コミュニケーション論) 砂田薫先生(高橋利枝先生)

SNSとファッション Instagramと大学生のつながりからみる消費行動の在り方

AI倫理に関する若者の意識調査について

日本酒の日本における人気低迷と海外における人気の高まりの実態

世界で広まるSUSHI文化と寿司店のあるべき姿

現代の若者の「シンデレラ・コンプレックス」とお姫様のイメージの関係について

「魅力的な容貌」とは —「魅力的な容貌」を形成する普遍性をもつ魅力の要素と相対性をもつ魅力の要素—

若者の食意識と食生活 —若者と食のあるべき姿とは—

現代社会における「暇」の存在 —消費行動の諸相—

ラグビー・ワールドカップ2019報道が映しだす日本の多様性

「ポリコレ映画」の現状と良質な映画とは何かについての考察

物質性からみる紙の書籍の価値

離婚の原因から人生の幸せを探る —結婚において必要な資質とは—

日本のグローバル化に伴う若者移民受け入れ意識の変化

東京一極集中緩和へ向けて —若者の地方への人材分配—

YouTubeの若者人気 —大学生の利用と快樂—

デジタル化社会における女性ファッション雑誌の情報発信方法提案

感性文化ゼミ(現代の文化哲学) 小林信之先生

「シンデレラ」物語におけるキャラクター像分析

ベルクソンによる正確な形而上学としての持続と待機

人間は根源的に不幸な生き物か

「音楽を語る」とはどのようなことか —ドビュッシー『前奏曲集第1巻第8曲 亜麻色の髪の乙女』についての文章を例に—

脱芸術的音楽試論 —カント以降の認識論に見る二分性を基盤に音楽を聴取することの可能性について—

味覚体験の完全なる共有を目指して

なぜ人は「知ること」を求めるのか

剥製の芸術から見出される死生観と美的価値について

AIは人間的な自我をもてるのか ~同一性からの視座~

感性文化ゼミ(日本の美意識) 陣野英則先生

日本における「名前」の機能

モーリス・ベジャール『ボレロ』にみるバレエの越境性

日本における懐古と捏造

現代の日本の子どもたちと「死」の関係

「ジブリ飯」と現代の食生活

旅に対する価値観とその影響 —『小倉百人一首』の歌人たちとその時代—

日本における集合住宅とこれから

「見る」ということとは —インスタレーションアートを通して—

日本人の〈書く〉こととフォントへの美意識

能楽の形成と庶民との関わり

日本におけるミニマリズムの受容と変遷

日本の接客サービスへのまなざし

表現としての涙・泣くこと

日本におけるeスポーツ文化の後進性

感性文化ゼミ(集合的アイデンティの諸相) 山田真茂留先生

現代における消費社会の諸相 —体験価値の高まり—

笑いのツボ —コントという「お笑い」

日本人の礼儀観とその展望 —対人関係観の比較から

現代における音楽文化の拡散と均質化 —展開とその後—

少子化という問題 —人口・家族・労働の観点から

スポーツから見るナショナリズム —2020年東京オリンピックを中心に—

現代における対人関係と居場所

感性文化ゼミ(現代文明への視座) 高橋透先生

企業とソーシャルメディアの未来 ~時代は消費者主導に~

ラグビー日本代表の未来 —プロリーグがつくる新たな可能性—

キャッシュレスが日本の社会と精神に与える影響

先端技術の発展と未来の「人間らしさ」像

日韓関係の今後を探る

現代日本におけるヒット曲の法則の考察および二次サービスの考案

現代アニメソングの性質研究および音楽業界との連携についての考察

自動運転車の社会がもたらす変化

ARの日常利用に向けて

クラシック・バレエとその今後

デジタルアートを利用した空間から提示する街づくり

ジャニーズ事務所から見る日本におけるアイドルの変容について

ハワイ・オアフ島における社会経済的格差と民族の関係性の考察

—パロップレスクールでのボランティア活動を通して考える—

ナイトタイムエコノミーを軸とした歌舞伎町の観光振興施策の提案

卒業研究

ロートレックの人物表象について

ソーシャルメディアと新しい世論形成のかたち

メカニズムデザインを用いた、心理的安全性を向上させる組織内の制度デザインの提案

究極のバーチャルリアリティと現実は識別できるか —ギブソンの知覚論から考える—

変わるストラヴィンスキー、変わらないストラヴィンスキー —ストラヴィンスキーの「信条」と「成長」について—

Mike Kelly 《Day Is Done》について